

平成31年度学校自己評価システムシート（県立特別支援学校さいたま桜高等学園）

目指す学校像	1 生徒一人一人の主体的な学びを通し、持てる力を最大限に発現できる教育実践に取り組む学校 2 生徒一人一人の社会で生きて働く力を着実に育み、一般就労の実現と職場定着の向上に取り組む学校
--------	---

重点目標	1 生徒一人一人の能力や特性を踏まえ、生きて働く力を確実に高めるため、主体的・対話的で深い学びの実践、教員同士の学び合いを充実させ、更なる授業力の向上と就労支援の充実を図る。 2 生徒一人一人の調和のとれた心と身体づくりに取り組み、生徒自身の自己肯定感の向上を図る。 3 教職員一人一人が持ち味を生かしチームとなって、地域との連携・協働した活動の推進に取り組む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○ 指導内容表を活用し、系統立てた授業実践が行われるようになった。主体的・対話的で深い学びへの授業改善に取り組み始めた。SAKURA 学級を目指す取り組みは、生徒の活躍する場面の創出となっている。進路会議を中心とした職場定着を目指した進路指導が実現してきた。卒業後のアフターケアを卒業後に行うことで効果があった。 □ 主体的・対話的で深い学びの授業実践による生徒同士の学び合いを深め、生きて働く力を育成するための授業力の更なる向上を図る。引き続き、一人一人にあった進路実現により定着率の向上を目指す。	・一人一人の生徒の能力や適性を踏まえながら、生きて働く力を高めるための授業力向上を図る。	①効果的な研修、公開授業の設定、授業研究に係る特別日課を工夫するなどの教員同士の学び合いから、生徒一人一人の課題解決へ向けた主体的・対話的で深い学びの授業づくりを行う。 ②学級・学年・学科や委員会・部活動などで、リーダーとして活躍できる場を設定し、集団の力を利用した個の伸長を図る。 ③引き続き、卒業後すぐの時期に定着支援に取り組むと共に、キャリア発達の段階に応じた指導を充実させる。	①教員同士の学び合いから生徒の学びが深まったか。 ②生徒自身、教職員自身が「さくらの精神」で、活動へ主体的に取り組んだか ③卒業後の職場定着へ向け、生徒一人一人に合った進路指導が行われたか。	・教員同士の学び合いから授業改善へ向けた実践が進み始めた。 ①新学習指導要領(6月)、特別支援学校における主体的・対話的で深い学び(8月)の研修会を行った。年次研修の研究授業・研究協議会から主体的・対話的で深い学びの実践が行われ、授業改善に向けた理解が進んだ。 ②学級・学年・学科・委員会・部活動などで、生徒の活躍する場を創出している。「SAKURA 学級賞」2年目にあたり校長から全校集会で周知を図り、学年末に表彰を行う予定である。 ③4・5月の定着支援を行った。今年3月卒業生の離職は2名である。一人一人に合わせ、集団実習や教育局チームびかびかへの実習にも取り組んだ。	A
2	○チェックシートを活用したプランを生徒・保護者と共に作成している。生徒一人一人の実態把握により指導の計画・実施・評価を行っている。PTA運営委員会を年4回設け、活動の報告と意見交換を行った。 □プラン作成にあたり生徒も参画し、生徒・保護者・教職員それぞれの思いを大切にプラン作りを行う。集団の持つ力を活用しながら生徒一人一人の課題改善に向けた取り組みを行い、生徒自身の自己肯定感を高める指導の充実を図る。PTA組織を活用して、保護者と協働した学校運営に取り組む。	・生徒、保護者、教職員、地域の思いを生かしながら、調和のとれた心身の伸長を図り、生徒の自己肯定感を高める。	①チェックシートを活用したプラン作成では、生徒が参画し保護者と教職員が連携し共通認識を図る。新学習指導要領を見据えて、特別の教科道徳の指導内容、チェックシートの見直しなど、指導を充実させる。 ②PTA運営委員会などを中心に保護者と教職員との情報共有を図る。PTA勉強会や見学会の企画など、保護者と協働した学校運営を進める。	①自立活動の目標から各教科の指導が充実し、生徒一人一人が意欲的に学習に取り組むことで、一人一人の課題改善が図れたか。 ②PTA運営委員会や各組織を活用し、保護者のニーズに応じた運営が行われたか。	・生徒の課題を本人・保護者と共有し、チェックシートの見直しとPTA組織の改善に取り組み、生徒が活躍できる環境整備に取り組んだ。 ①個別面談・授業参観期間を設け、本人・保護者とプランA・Bの作成を行い、自立活動の課題と保護者・本人の願いを確認した(5月)。チェックシートの見直しを行い、来年度へ向けて職業ノート「明日へ Step」を作成した。 ②PTA運営委員会による意見交換が行われ、PTAの各組織が実態と合うように組織改革が行われた(2月25日、臨時PTA総会)。学校とPTAが協働できる体制を目指していく。	B
3	○来校者が多く見込まれる日のショップ・カフェの運営や外部とコラボした企画を行った。県のモデルケースとして高校通級指導教室の支援を定期的に行った。企業向けセミナーの開催、実習先の新規開拓に当たった。 □ショップ・カフェへの来店者数の確保と地域と連携した取り組みにより本校のファンを増やす。高校支援のための専門性を引き継いでいく。企業のノウハウを学ぶと共に障害者雇用に対する企業の理解を深めていく。	・特別支援教育を推進させるためのセンター的機能のより一層の充実を図る。	①地域のニーズに応える製品やサービスの提供などへ向けた指導の充実を図ると共に効果的な情報発信により、年間売り上げ400万円を目指す。 ②引き続き新座高校への支援を行うと共にコーディネーターを中心として高校支援を行う。また、企業から学ぶ機会の確保と就労支援担当を中心として企業の障害者雇用の意欲を高める研修会や情報提供を行う。	①地域のニーズに応えた製品やサービスの提供、適切な情報提供により、年間売上が目標高に到達したか。 ②高校や企業のニーズに応じた支援が行われたか。	・カフェやショップ等の運営と高校支援・企業支援に取り組んだ。 ①外注や来校者が見込める日を活用したショップ・カフェ等の営業から年間売り上げ約440万円となった。活動が認められ、埼玉・教育ふれあい賞を受賞した。 ②新座高校の支援を引き続き行った。県・全国で事例を発表し、高校支援の推進校となっている。企業の方を講師とした生徒・保護者・教員向け講演会を開催した。企業研修へ6名の教員を派遣した。企業向け学校公開(7月)では現役生徒との懇談、障害者雇用セミナー(12月)ではパネルディスカッションを実施し好評を得た。	A

学校関係者評価	実施日 令和2年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・生徒・保護者アンケートの評価が伸びていることは、取り組みの効果の表れである。主体的・対話的で深い学びの良い例を情報共有すると良い。 ・働き続けることは、会社が変わってもキャリアアップとなることもある。 ・定着支援は在学中からの環境調整が必要である。強みを褒めることも必要だが、弱みと言われる中に強みもあり鍛えれば伸びる場合もある。生徒の本当の意思を引き出す聞き方の工夫が必要である。 ・各コースの実践で確実な効果が出ていることが感じられる。どうして働き続けるのか、自己でチェックし、確認できることが大切である。ハードルを低くすると伸びを抑えてしまうこともある。 ・保護者から文化祭のPTA販売は好評であった。 ・生徒からはPTA販売のところが楽しかったとの声を聞いた。各科の製品を合わせた体験的な活動があると生徒がもっと楽しめるのではないか。 ・夏の盆踊りや敬老会の品でお世話になった。卒業までに地域のお年寄りと交流できる良い機会となっている。 ・卒業後、地域の人生の先輩からお話などを聞く機会があっても良いと思う。 ・さいたま桜には期待が寄せられている。卒業生にとっても誇りの持てる学校として、より良い学校になっていくことを望む。